Team River（古田リバー後援会）ニュースレター　発行：2024 年 12 月 1 日

〒847-0855 佐賀県唐津市西浜町 1-15
電話 070-3970-0774（直通）
メール info@team-river.com
https://team-river.com/

だるま通信 Vol.1

～高橋是清のひ孫から～

名前：ふるた リバー

米国の高校・大学・大学院を卒業した
日英のバイリンガル。唐津に魅了され移住し、
介護福祉士・障がい者支援員として勤務。

TOPICS

1. ごあいさつ
2. 高橋是清と私 ～4つの共通点～
3. 絶望から希望へ
4. 地域の安全見守り中！
5. 朝の挨拶 & 安全運転啓発活動
6. 認知症を支える法律、共生社会への一歩
7. 友人と巡る唐津の魅力

高橋是清が「**だるま宰相**」と呼ばれていたので、シンボルとして**だるま**を使っています。私は曾祖父のように、どんな状況でも結果を出し、前に進む強さを受け継いでいる、と自負しています。このシンボルマークは、その決意と信念の象徴です。縁起物としてもこの**だるま**が、希望と前向きなエネルギーを皆さんに運んでくれますように！

自己紹介

ごあいさつ

1

はじめまして、ふるたリバーと申します。私の名前は、流れる川を意味する「River（リバー）」を選び、国内で改名手続きを経た本名です。日本とアメリカで育ち、3 年前に唐津・西浜町に移住してきました。曽祖父は高橋是清（たかはし これきよ）です。「とことん現場主義」をモットーに、地域に根ざしたボランティア活動に積極的に参加しています。
この「だるま通信」を通じて、実行力と既成の考えに縛られない国際的な視点と発想をもって、唐津の明るい未来を皆さんと共に考え、実現していきたいと願っています。どうぞよろしくお願いします。

高橋是清（たかはし これきよ）と私 ～4つの共通点～

2

私の唐津移住は、曾祖父・高橋是清（以下、ひいおじい様）の導きあったと強く感じています。なぜなら、4つの共通点があるからです。

①アメリカ滞在と英語力

ひいおじい様は 14 歳でアメリカに渡り英語を学びましたが、騙されて身売りされ 15 歳で何とか日本に帰国。その後、18 歳で唐津城内の英語教師として迎えられ、英語と国際的な視野という「ツール」を子どもたちに届けました。しかし、その学校はわずか 1 年で焼失し、ひいおじい様にはもっとやりたかったことがあったのではないか、そこで同じく海外経験と英語力を強みとするひ孫（私）が唐津に導かれたのではないか、と感じています。

②改名、新しい道を探していた時期

ひいおじい様は唐津に来る前は、お酒に溺れトラブルを起こしていました。人生の迷走期に唐津で再出発を決意、「東 太郎（あずま たろう）」と改名し、再スタートしました。私も帰国後、教師として働きました。その後、人生の転機に「リバー」と改名し、唐津に移住しました。私たちにとって、唐津は再生の地なのです。

③地域の人々の温かな支え

おじい様は唐津の人々に、轎（かご）で迎え入れられるほどの歓迎を受けたと聞いています。私も職場の同僚や利用者さんに親身に接していただき、唐津の人々の優しさに救われました。ひいおじい様も、きっと同じように力をいただいたのだと思います。

８２歳の時に末娘（私の祖母）にプレゼントした自筆サイン入り写真

④ 先見性を持った教育方針

おじい様は、英語や世界の地理・歴史を男女を問わず平等に教え、多くの偉人たちを育てられました。「平等」の真の意味は、一人ひとりが自分らしく生きられることです。私がアメリカで学んだ障がい者指導法も、知識を暗記するのではなく、「人生に役立つツール」を手に入れ、自分の強みを活かし、“自信” を育てる教育方針です。子どもたちが堂々と人生を歩めるよう、今後も教育を通じてサポートします。

おじい様の足跡を辿りながら、唐津への感謝を皆さんに伝えられて、本当に嬉しく思います。
ありがとうございます。

絶望から希望へ

3

妊活で感じた経済的・精神的な支えの大切さ

私は 2017 年に福岡市で体外受精を 2 年間、200 万円以上かけて行いました。福岡では情報発信があったものの、十分に得ることができず、必死にネット検索をして、藁にも縋る思いで取り組みました。

私が利用した補助金制度は、2022 年 3 月末に終了し、その後は保険適用となりました。ただし、保険適用の金額は女性の年齢によって異なります。唐津でも、この情報が行き届かず、経済的な理由で治療を進められなかった人もいたそうです。

体外受精とは、不妊治療の一種です。あの頃は、失敗するたびにトイレでただ泣くことしかできませんでした。それでも一週間後には次の治療サイクルが始まります。マイナス感情を抑え無理やり希望を持ち、頑張りました。私の場合は、お金が底をつき治療を止めましたが、治療中よりも治療後の方が大変でした。通院が終わることで、適切な情報やその後のサポートが受けられなくなり、経済的、肉体的、精神的、そして信仰的なダメージを抱えたまま、離婚に至りました。失ったものは多すぎました。

私はあの頃、正しい情報を、信頼できる方から優しく教えてもらいたかったです。長期間、無気力と絶望を感じましたが、支えとなる環境があれば、違う結果があったかもしれません。治療が成功するのが一番望ましいですが、失敗した場合に、その家庭の支えとなる環境作りの必要性を痛感しています。

活動報告

地域の安全見守り中！

自転車に乗って大好きな唐津市内を巡り、松浦川を挟んでメイン道路を走行しています。地域の方々とふれあう機会が増え、唐津への愛が深まっています。
自転車に乗ることは健康にも良く、エコで、何より地域をより身近に感じることができます。時には清掃活動も行いながら、少しでも地域の方々に貢献できるよう努めています。

「地域の安全 見守り中」の緑色ののぼり、赤いヘルメットと赤い「本人」のタスキが目印です。
一緒に回ってくれる方、大歓迎！是非、ご一報ください。

朝の挨拶 & 安全運転啓発活動

月曜日から土曜日の朝、だいたい7時半から9時過ぎまで、後援会事務所前に立ち「おはようございます！」と通行される方々に挨拶をしています。
もし見かけたら、ぜひ手を振ってくださいね！

お役立ち情報

認知症を支える法律、共生社会への一歩

日本では、認知症のある方やご家族が安心して暮らせるよう、いくつかの法律が整備されています。今回は、2つの法律をご紹介します。似た名前ですが、目的と役割が異なります。

1.認知症基本法

認知症のある方が尊厳を保ちながら生活できる社会をつくるための基盤となる法律。以下の支援を柱にしています。
（ア）認知症の早期発見と予防
（イ）適切な医療・介護サービスを提供し、必要な支援が受けやすい環境を整備
（ウ）認知症に対する偏見を減らし、理解を深めるための啓発活動

2.共生社会の実現を推進するための認知症基本法

2024年1月施行の新しい法律で、認知症があっても生き生きと暮らせる共生社会の実現を目指して、取り組まれています。
（ア）地域支援体制の整備：住み慣れた地域でサポートを受けながら暮らせる体制づくり。
（イ）権利の尊重：当事者の尊厳や意思を尊重し、社会参加を支援。
（ウ）家族や介護者への支援：介護を担うご家族や支援者の負担軽減に向けたサポートの充実。

唐津市でも、この新しい法律のもとで、地域の皆さんが一体となって認知症のある方とそのご家族を支え、安心して暮らせる街づくりを進めています。法律や制度を正しく理解し、助け合いの輪を広げていくことが、唐津市全体で共生社会を実現するための大切な一歩だと思います。

地域の魅力紹介

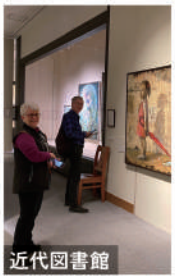
友人と巡る唐津の魅力 ～自然と歴史、人々の温かさを体感～

唐津城

佐志食堂

先日、アメリカから友人のMaryとJimが唐津を訪ねてくれました。まず、唐津駅構内の観光案内所で唐津の歴史や文化を紹介。その後、近代図書館にて佐賀の若手アーティストによる展示を鑑賞しました。「無料でこんな質の高い展示が見られるなんて！」と2人とも驚いていました。
次にアルピノの1階で土産選び。彼らはマンホールアート大ファンで、日本各地のマンホールのグッズを集めているとのこと。ムツゴロウが描かれたマンホールアートTシャツを見つけて即購入。2階で唐津焼の美しい作品を鑑賞後、隣で唐津くんちの曳山を間近で見学し、その迫力に「ワオ！」と感動していました。
末盧館の唐津城の石垣修復と菜畑遺跡の展示についても解説しました。歴史の深さに驚いた二人の「アメイジング！」という反応に、私も日本人として、唐津市民としての誇りを改めて感じる瞬間でした。
お昼は佐志食堂で地元食材を活かした料理を堪能。日本ならではの「味」を経験してもらい、文化や方針の違いについて語り合えたのも貴重なひとときでした。
午後は旧唐津銀行へ。

旧唐津銀行


近代図書館

西洋建築の重厚感に「まるで映画のセットみたい！」と何枚も写真撮影。Jimは必ずMaryの肩に手を回してポーズ。こうしたさりげない愛情表現が素敵で、こちらまで幸せな気分になりました。
歴史的背景を知った上で、最後に唐津城を訪れたので、二人とも一層深く感動してくれたようです。
唐津の自然、歴史、そして人々の温かさに触れたMaryとJim。彼らが唐津を気に入り、素晴らしい思い出を持ち帰ってくれたことが、何よりの喜びです。
これからも、唐津の魅力を広めていきたいと強く感じた一日でした。

ご意見やご相談は、私のホームページまでお寄せください！

ふるたリバー　検索

＼ぜひフォローしてくださいね！／

ホームページ　ブログ　Instagram